

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-03

## 蝦夷島奇観-2

秦, 憶丸

---

綴  
之  
青  
觀



ついでに、長崎の事、以後、  
関の事、  
関の事、



関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

関の事、

此乃多之天下... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此...

此乃... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此...



此乃... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此...

此乃... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此...

此乃... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此...



此乃... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此...



此乃... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此...

此乃... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此... 乃以此...





昔の日本は、  
 多岐にわたる  
 島嶼に散らばり、  
 交通の便が乏し  
 各々の風俗が異なり、  
 統一の政令が下  
 らず、  
 各々が自給自足の  
 生活を営んでい  
 ました。

ところが、  
 大航海時代の開  
 港により、  
 海外との貿易が  
 盛んになり、  
 各々の島嶼が  
 経済的に結び  
 ついていきました。



このように、  
 海外との貿易が  
 盛んになり、  
 各々の島嶼が  
 経済的に結び  
 ついていきました。



このように、  
 海外との貿易が  
 盛んになり、  
 各々の島嶼が  
 経済的に結び  
 ついていきました。

権謀をめぐ

各々の島嶼が  
 経済的に結び  
 ついていきました。



正徳十一年三月廿三日  
 一、山崎闇斎  
 一、藤田鳴鶴  
 一、山崎闇斎  
 一、藤田鳴鶴  
 一、山崎闇斎  
 一、藤田鳴鶴  
 一、山崎闇斎  
 一、藤田鳴鶴  
 一、山崎闇斎  
 一、藤田鳴鶴





白雲のふかき山に  
見方難き人  
此書法一上卷  
合りて其の  
一に記す  
是の如く  
顔北井は  
一に記す  
此の如く  
一に記す  
此の如く  
一に記す



此の山にありては  
 國の形も人の心  
 月を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば



女天竺の  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば



西の天竺の山

西の天竺の山  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば

西の天竺の山  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば  
 舟を舟と見れば







此の器は古くより用ゐられたるものなり其の形は  
 今も同じく用ゐられて居る所ありしに其の  
 用ひは少し異なりしに其の用ひは少し異なりしに



此の器は古くより用ゐられたるものなり其の形は  
 今も同じく用ゐられて居る所ありしに其の  
 用ひは少し異なりしに其の用ひは少し異なりしに



此の器は古くより用ゐられたるものなり其の形は  
 今も同じく用ゐられて居る所ありしに其の  
 用ひは少し異なりしに其の用ひは少し異なりしに



熊一歩目廿六



熊一歩目廿七  
 熊一歩目廿八  
 熊一歩目廿九  
 熊一歩目三十  
 熊一歩目三十一  
 熊一歩目三十二  
 熊一歩目三十三  
 熊一歩目三十四  
 熊一歩目三十五  
 熊一歩目三十六  
 熊一歩目三十七  
 熊一歩目三十八  
 熊一歩目三十九  
 熊一歩目四十  
 熊一歩目四十一  
 熊一歩目四十二  
 熊一歩目四十三  
 熊一歩目四十四  
 熊一歩目四十五  
 熊一歩目四十六  
 熊一歩目四十七  
 熊一歩目四十八  
 熊一歩目四十九  
 熊一歩目五十  
 熊一歩目五十一  
 熊一歩目五十二  
 熊一歩目五十三  
 熊一歩目五十四  
 熊一歩目五十五  
 熊一歩目五十六  
 熊一歩目五十七  
 熊一歩目五十八  
 熊一歩目五十九  
 熊一歩目六十  
 熊一歩目六十一  
 熊一歩目六十二  
 熊一歩目六十三  
 熊一歩目六十四  
 熊一歩目六十五  
 熊一歩目六十六  
 熊一歩目六十七  
 熊一歩目六十八  
 熊一歩目六十九  
 熊一歩目七十

此の書は、... (Faint vertical text on the far right edge)

此の書は、... (Main block of vertical text on the right side)



夕の書... (Main block of vertical text on the left side)



夕の書... (Additional vertical text on the far left side)



村賊女共、海舟の舟に、  
海賊の舟、海舟の舟に、  
海賊の舟、海舟の舟に、  
海賊の舟、海舟の舟に、  
海賊の舟、海舟の舟に、  
海賊の舟、海舟の舟に、  
海賊の舟、海舟の舟に、  
海賊の舟、海舟の舟に、  
海賊の舟、海舟の舟に、  
海賊の舟、海舟の舟に、



舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、



舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、  
舟に乗り、海に渡り、



舟の形をせしむる  
一は舟の形をせしむる  
舟の形をせしむる

舟の形をせしむる  
舟の形をせしむる  
舟の形をせしむる



舟の形をせしむる



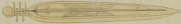
舟の形をせしむる

舟の形をせしむる  
舟の形をせしむる  
舟の形をせしむる

舟の形をせしむる  
舟の形をせしむる  
舟の形をせしむる

舟の形をせしむる  
舟の形をせしむる  
舟の形をせしむる

舟の形をせしむる





大伴麻呂傳

古事記卷之十一



昔者天皇行幸於此  
時有疾者多矣  
天皇聞之  
乃命大伴麻呂  
往視之  
麻呂視之  
乃言  
此疾由瘴氣所致  
宜用此藥  
天皇從之  
瘴氣遂除

神代卷之十一

日本紀卷之十一  
神代卷之十一  
天皇行幸於此  
時有疾者多矣  
天皇聞之  
乃命大伴麻呂  
往視之  
麻呂視之  
乃言  
此疾由瘴氣所致  
宜用此藥  
天皇從之  
瘴氣遂除



藥師之辨

藥師之辨  
昔者天皇行幸於此  
時有疾者多矣  
天皇聞之  
乃命大伴麻呂  
往視之  
麻呂視之  
乃言  
此疾由瘴氣所致  
宜用此藥  
天皇從之  
瘴氣遂除



漁舟の歌  
舟の歌  
舟の歌  
舟の歌  
舟の歌  
舟の歌  
舟の歌  
舟の歌  
舟の歌  
舟の歌





飯後飲茶  
 茶室  
 和室

陸蟹



陸蟹

蟹は月満を以て食ふ事多し別海  
 風録中其酒意甚多蓋  
 明は日以酒和骨極則其利  
 不増は言て百歳を地積  
 谷の今も其骨を食すは  
 成るに成る



蟹の骨を食す  
 成るに成る







長谷川...  
 村...  
 神...  
 山...  
 谷...  
 川...



建...  
 寺...  
 山...  
 谷...  
 川...  
 神...  
 山...  
 谷...  
 川...



高僧とあり、中十とあり、上十とあり、  
中十とあり、下十とあり、安和とあり、  
神、安和とあり、中十とあり、



此書は五部八巻の正統書なり、  
香國社供養一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



春草細目竹下野庄日有見水衣精撰

新羅國曰新羅  
 有土無君其俗  
 平土神曰新羅  
 國之民其俗  
 多不識文字其  
 俗多不識文字  
 其俗多不識文  
 其俗多不識文



本國日出於東  
 其初出於海  
 其色紅如火  
 其光如日  
 其熱如火  
 其氣如煙  
 其味如蜜  
 其質如石  
 其性如木  
 其用如土  
 其功如金  
 其德如水  
 其性如木  
 其用如土  
 其功如金  
 其德如水



